

# 静原の里ワークショップ

## 綾部まちづくりスタディーツアー報告書

実施日 平成24年2月19日（日）

1. 「JA出張所が廃止に！自分たちだけで新しい店を創ろう！」  
(株)空山の里代表 村上正さん
2. 「自分のX（天職）をまちづくりにかけ合わせる」  
半農半X研究所代表 塩見直紀さん
3. コラム お昼ごはんレポート・カフェ兎遊オーナーのお話
4. スタディーツアーに参加した感想
5. コラム スタディーツアーで共有した、私たちのA×B×C



発行：静原の里ワークショップ／企画運営委員会  
左京区役所地域力推進室まちづくり推進担当

## 「JA 出張所が廃止に！ 自分たちだけで新しい店を創ろう！」

午前中は「空山の里」を見学し、代表者の村上正さんのお話を聞きました。村上さんは豊郷村（300戸程の集落）の元自治会長さんで、現在は元JAの出張所を店舗に改装した「空山の里」を運営されています。出張所が廃止されることが分かってから4箇月、出張所が閉鎖してからわずか5日で「空山の里」をオープンされた当時のお話をお聞きしました。

### このままでは無店舗村に…



10年前、私たちの住む豊郷村の小幡出張所が、合理化のために廃止されることになりました。そうすると、無店舗村になってしまい、年寄りが買い物に行くのに車が必要になってしまいます。そこであわてて「検討委員会」を立ち上げ、村の代表者が集まり、新たな店の形を模索しました。市長に補助金を出してもらえないか、かけ合いました。今後JAが統合されていく中で、全ての店舗に補助金を出すことは現実的に無理と断られました。

### 集まった！650万の出資金

行政は頼りにできないと、自分たちだけの力で店舗を維持するため、当時自治会長だった私が発起人となり、一口2万円の出資金を集め始めました。村の大きい老人ホームから100万円の寄付が寄せられたことも引き金となり、「自分たちの村のために、われらもやらなくては」ということで、全額で650万円が集まり、農協の施設跡地を購入できました。

次はだれが店を管理するかという問題でしたが、ちょうど大阪から移住してきたご夫妻が、「隣でカフェを併設してくれたら、それと一緒に自分たちがみる」と言ってくれました。

### 年間売上1200万！

また、同時に店舗内に簡易郵便局の窓口を開くこととなりました。その収入、商品の売上、駐車場代などを合わせ、最盛期は1200万円の売り上げがあり、現在では落ちてきましたが、800万程の売り上げがあります。また、当初400万円あった借金が、現在では100万に減ってきました。利益配分する程の儲けは出ませんが、赤字も出さずにやれています。



### 増える移住者

この村は、小学校がなくなったことから、若い世代は多くないけれど、近年は移住してくる人が増え、私の集落では100戸のうち11戸が外からの人。特に歓迎のイベントなどはしていないが、こちらが心を開いて向かっていけば、相手も答えてくれる。「白菜採れたけどどうや？」「ありがとう。コーヒー入れたし飲んで行って」と、自然に関係が作られていっています。

## 「自分の X(天職)をまちづくりにかけ合わせる」

午後からは塩見直紀さんのお話をお聞きしました。「自分の得意なこと・好きなこと・ライフワークを実現しながら、農ひいては地球とつながって生きる」というライフスタイルを発信され、それに共感する方がどんどん綾部に移り住んでいます。

### あなたの天職は何ですか？

「半農半 X」とは、15 年前に生まれた言葉で、「持続可能な農のある小さな暮らしをしながら与えられた自分の X (大好きなこと・得意なこと・ライフワーク) をしていくという考え方」です。その X を探すこと、つまり「天職問題」がこれからの時代のキーワードになると思います。



### 1000 人が空家が出るのを待っている町

現在、綾部に住みたいという方が 1000 名おられ、空き家待ちの状態です。市の定住促進課も、「空き家登録制度」などを頑張って運用してくれたり、地域内で若い世代の移住促進に熱心に取り組まれ、成果を上げている方もおられます。

### A×B×C/場所 のワーク

これをいろんな場所で行ってきたけれど、一度も「誰かとまったく同じ」になったのを見たことがありません。全部同じだったら結婚か起業を進めることにしています (笑)

たとえば「写真」だけならライバルはたくさんいる。でも「写真」に「福祉」や「食育」などを掛けたら自分の独自のものが出せます。また、自分のキーワードと誰かのキーワードを掛け算したり、関係のなさそうな、遠いものとかけ合わせると面白いものができます。

これを東京なんかでやると、好きな場所を描けない人が多い。好きじゃない場所で、好きじゃない仕事をして、好きな人と住めない…。皆さんは静原があって良いですね。

旅が好きという方も多いですね。旅は「他火」とも書き、よその火を見ることといいいます。観光も「光を観る」と書きます。静原の光は何ですか？

集落は開かれていることと、大切なことを守り抜くこと、そのバランスが大切です。是非静原の火を大切にしてください。

### 自分の X を探そう！

塩見さんの講演で行ったワークです。ABC にご自分の好きなもの、得意なこと、ライフワークを、分母のところに場所を書いて下さい。ご家族・お友達とやってみて下さい！

A( ) × B( ) × C( )

好きな場所・活動のフィールド

## <コラム①>

### お昼ごはんレポート

「NPO 法人里山ねっと・あやべ」では、大人数グループでの見学者や宿泊者を対象に、地元産の食材を使った食事の提供サービス（有料）をされています。当日、私たちがいただいたお昼ごはんもこのサービスを利用しました。約10人の地元のお母さん方が、ローテーションを組んで調理されているそうです。

この日のメニューは、野菜の天ぷら、煮物、白和え、けんちん汁、ごはん、塩昆布、みかんでした。地元で採れた野菜をふんだんに使った、ヘルシーなのにボリューム満点という嬉しい内容で、参加者全員で美味しく、楽しくいただくことができました。

当日の料理を作ってくださったお母さん方は、「同じ味はもう2度と出せないんですよ！」と嬉しそうにおっしゃっておられ、誇りを持って調理されていると強く感じました。

ツアーの参加者の間では、「静原でもこのような食事提供ができたらいいのかなあ」、「朝市で、このような定食を出したらどうか？」と会話も弾み、楽しいひとときを過ごすことができました。

(左京区役所 藤田万智子)



## <コラム②>

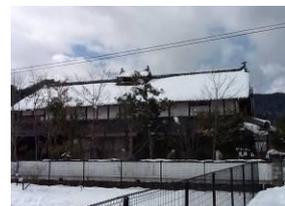
### 「好きなことを続けていたら、今の形にたどり着きました」

#### (カフェ「兎遊 (to you)」オーナーのお話)

老後の楽しみをと思って絵を習いだすと同時に、余生をゆっくり過ごせそうな場所探しを始めました。二年かかってみつけたこの家ですが、屋根は崩れかけ、一部では空が見えるようなありさまでした。でも、梁はともしっかりしていて、古民家専門の建築屋さんに手を入れて頂き、立派になりました。

友達を呼んで、自慢がてら遊びに来てもらうようになると、皆が口をそろえて「住むだけじゃもったいない。もっと有効にしたら？」と言いました。娘が「何とかしてみようか」と言ってくれ、始めたのがこのカフェです。今では大阪や姫路、舞鶴などからお越しいただいています。

田舎の土・空気・お野菜が身体に合って、とてもゆっくり暮らせています。家の横の休耕田を借り、花畑を1500坪作っています。お店の名前の由来は、私と夫、娘と娘婿がみんな兎年。兎の遊ぶ場所ということで「兎遊」と名付けました。



## ◆スタディーツアーに参加した感想◆

古澤 納さん

子どもが減少していく中、静原と同じ問題を抱えて頑張っておられる綾部を今一度訪れて見にきませんか、市のまちづくりの方が計画して下さって行って来ました。

思い出が数々ある教室で、町おこしの為、民宿を経営しておられるお姿は、昔のように子供たちの楽しい声が聞こえるような気がして、胸が熱くなるのをおぼえました。

また、蔵のある町の風景ってすばらしいですね。その蔵を改装してカフェとしてお茶や食事を出して頂きました。その材料はすべてこの町で採れたものです。この地を訪れた人・話を聞いた人全てが、一度は行ってみたいカフェでした。また、古い民家を改装して、訪れる人達が集まって楽しめる木造りの家も印象的でした。

私たちの町静原も同じような問題を抱えています。今回の綾部スタディーツアーで私たちは数多くのことを学んできました。この行事については、工芸繊維大学の先生・生徒さん・まちづくりアドバイザーと多くの方々にお世話になり、ありがとうございました。

静原の私たちも綾部に習って頑張ります。

## 「空山の里代表者 村上正さんのお話」 古澤久子さん

JAの閉鎖に伴い空山の里を設立された経緯をお聞きして、村上さんの人望、入り人も受け入れられた度量が、地元の280軒の内200軒の人々の共感が得られ、心がひとつになったんだなと思いました。

半農半X研究所代表、里山ねっと・あやベスタッフ塩見直紀さんのお話。

長年お勤めされていたのをおやめになり、綾部にUターン、勇気のいることですね。

半農半X研究所代表、そして里山ねっと・あやベスタッフとして、空き家の紹介等、市内外への発信や今回のツアー計画をしていただき、今では綾部の為に一生懸命なんだと思いました。

静原も何事においても、地元の人々の協力が得られるよう努力が必要だと痛感いたしました。

## 「思いを語ることで未来が見えてくる」 田中博一さん

前日降った雪の心配をしながらの「あやベスタディーツアー」でした。車中で高齢者が中心になって町おこしを成功させた事例のDVDを見たり、綾部では、JA撤退を機に、古い米蔵を販売店に改装、カフェや郵便局の併設で地域のコミュニティーの場としても成功させた村上様のお話と、塩見様からは、半農半X(農業をしながら天職を生きる)について

お話をして頂きました。十数年の取組みの話聞く中で、静原のヒントになる事、ミニワーク(好きな事や得意な事を3つ書き出し、それをヒントに、人との繋がりや輪を広げてゆく)は、大変興味深く聞かせて頂きました。

農地のそんなに広くない静原では、ある意味、半農半 X を実践していると言えます。それぞれの持っている特技や静原の特徴である(自然が豊か、市内に近い、手先が器用、元気な高齢者が多い、木工技術がある、など)「X」を活かす工夫を皆で語合う事が大事です。今回のツアーは大変刺激を受けて帰ってきました。いい勉強会になりました。

### 「あやべスタディーツアーに参加して」 中村源吾さん

ワークショップの取組の中でのひとつとして、先進的な取組みをされている地域を訪れて、その取組み方と実情を学ぶスタディーツアーへの参加者が、当初の予定を大きく上回り総勢31人にも達したことは、活力ある静原にしたいとの想いの表れではないでしょうか。

バスの中では鹿児島県の小さな村でのスゴイ取組をDVDで見せてもらい感動しました。今回都合で参加出来なかった方にも、機会があればぜひ観賞してもらいたいと思います。

目的地の空山の里では、代表者の村上氏のお出迎えを受けて米蔵を改造した店舗を見学し、隣の廃校となった小学校の教室に案内され、現在の取組みと、今ここに至った経緯を質疑応答も交えてお聞きしました。昼食は同じ校舎の一角に造られた調理場続きの食堂で地元野菜をふんだんに使った大盛りの昼食をお腹いっぱい頂きました。

昼食の後は、他の校舎内の施設の利用状況(二階の宿泊施設や談話室・別棟のお風呂、シャワー室・体育館・図書館等)と屋外に設置された石窯(二基)と地元出身の篤志家による立派な研修件宿泊施設の別棟も見学しました。その後、近くの喫茶店で塩見氏の講演をお聞きしました。

色々な取組みを試行錯誤を繰り返しながらも、成功の域に達せられた苦労話を直接お聞きする機会を得て感じたことは、地域にお住まいの各家庭(各戸)の協力は勿論のこと、先頭にたって努力を惜しまずに、まとめ役をかって下さった方がおられる事を知りました。

アイデアとタイミング、費用の捻出方法、その後の維持管理のこと、持続する為の秘訣は、地元のみんなの並々ならぬ協力がなければ成し遂げられない事をも学びました。

参加=賛成ではなく、参加して自分の考えている事を反対も交えて意見を戦わせる事から始め、よりよい方向を見出すためにも、先ずは参加しなければ物事が始まらない事も感じました。

今回の研修のことを思い出しながら、これからの活動にも参加しようと思います。

## 福山 喜治さん

「空山の里」を見学させて頂き、私が子供の頃、おやつをよく買いに行った、静原農協を思い出しました。静原も、空山の里のような施設があれば、地域の皆さんが利用するのではないのでしょうか。「手作り自治」の苦労体験談を、代表の村上様に話して頂き、地域の皆様の団結力を感じました。また、施設を、地元の方が利用するだけでなく、地域外のお客さんの取り込みにも力を入れておられます。そのための設備も、充実していました。

静原には、ハイキングに来られる方が多いので、このような、拠点となるような施設があれば、良いのではと感じました。

綾部の里山の自然とか、地元産の新鮮野菜を事業化しているなど、静原の活性化にむけて、参考になる点が多くありました。

## 京都工芸繊維大学 佐々木 厚司先生

JAの跡地検討委員会が立ち上がったから今に至るまで、約10年。委員会の発展形として歴史が刻まれた組織「空山の里」とまさに苦楽を共にされたのが村上さん。まずは一同揃ってその興味深いお話を聞くことができました。きっかけが地区農業拠点の存続であったこと、その後関連のNPO法人「里山ねっと・あやべ」との連携によって広範な里づくりの支援活動体制を作ったということ。その構図には静原の今の動きと重なるものがあると言えるでしょう。

さらに独自のスタイルでの試行錯誤の結果、転入者を多く受け入れるに至るまでの流れには、皆が大いに関心をかき立てられました。一言で言えば、廃校後の小学校を舞台にして、外部の応援団や行政の支援を元に、里山づくりのNPO活動が粘り強く展開されてきた訳ですが、それは地に足をつけた力強いつながりがあってのことと言えるでしょう。その事務局の塩見さんにも改めてお話を聞くことができました。

少し離れた会場は古民家カフェで、研修企画は里のもてなしを実感しながら、皆が打ち解けあい、我々自身の交流を図る機会にもなりました。

一行からは、旅行の話題が多く発言され、それを受けて塩見氏からは「もてなしの心、火のぬくもり、当地の光にふれる観光、などなどのキーワードが気になる」という話も出ました。原点を研ぎ澄ます可能性を持つ綾部豊郷地区周辺に、改めて関心を持った次第です。

それは里山文化をテーマとする京都各地域、中でも静原にこそ示唆を与える話題かと思いました。ツアーを通じては、ツーリズムを地域どおしの交流の機会として、イメージし直すことも有意義なことと確認できました。

良い機会を得て、これからの静原の活動の進展が楽しみです、実現にご尽力頂いた方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。

## ＜コラム③＞ スタディツアーで共有した、私たちのA×B×C

1. イラスト×旅×場所
2. 釣り×ゴルフ×旅行／海・川
3. まちづくり×自然×人／京都
4. 本×おいしいものを食べる×PTA 広報／静原小学校
5. 山釣り（？）×村×健康／静原
6. 野外活動×青少年教育×農／洛北地域
7. ホームパーティ×あそび心×自分らしさを活かしあえる事／京都・ハワイ
8. 料理×旅行×コース／京都
9. 農・環境×老人福祉×少子化問題
10. 絵×コース×野菜・花をつくる
11. カワセミ×自然・山×人・旅
12. 古民家×？×？
13. 衣×食×住
14. 静原×自然×原発／京都
15. 自然×人×生活／山村
16. 料理×工作×旅行
17. 料理×旅行×老後／山でも海でもないところ
18. 車のレース×仲間×楽しいこと／サーキット
19. アート観賞×読書×音楽活動／家・地域・サークル
20. 旅行×交流×モノづくり／長野
21. 青い空×協力しあう気持ち×子ども
22. 農業×1人旅×読書／1人でやること
23. 農業×村民の団結×このままで終わりにたくない／静地域
24. まちおこし×場所づくり×人づくり／縁あって関わっている地域
25. コミュニケーション×性×美肌／京都
26. 知る×語る×時
27. 仕事×スポーツ×海／京都・ハワイ
28. 人とのつながり×哲学×交流できるシステム作り